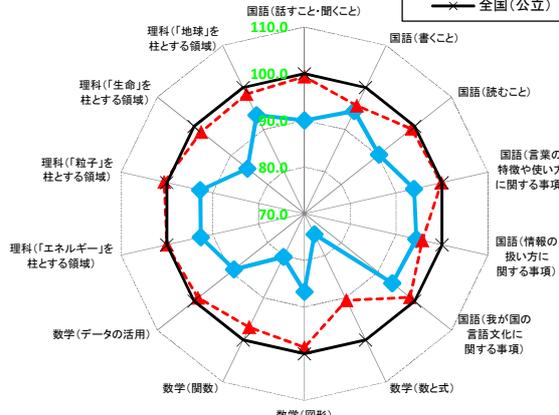
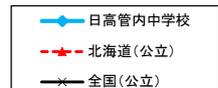
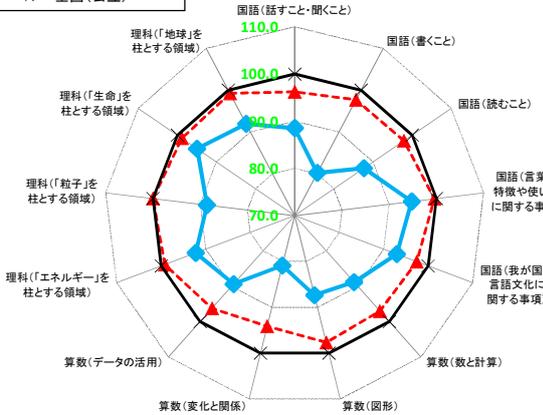
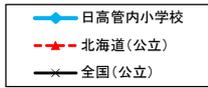


■日高管内の状況及び学力向上策（小学校数:26校、児童数:457人）（中学校数:15校、生徒数:460人）

小学校【教科全体の状況】

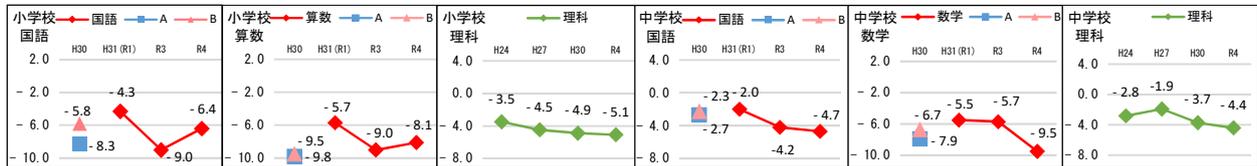
平均正答率	小学校国語	小学校算数	小学校理科	中学校国語	中学校数学	中学校理科
日高管内	59[59.2]	55[55.1]	58[58.2]	64[64.3]	42[41.9]	45[44.9]
全国	66[65.6]	63[63.2]	63[63.3]	69[69.0]	51[51.4]	49[49.3]

中学校



教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの（管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

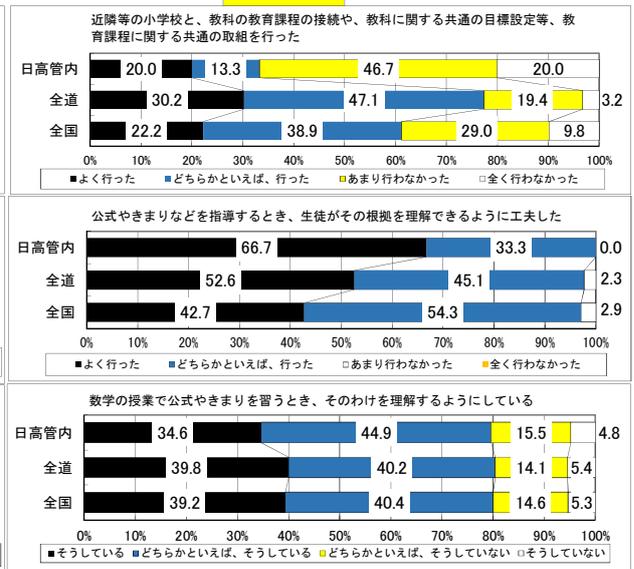
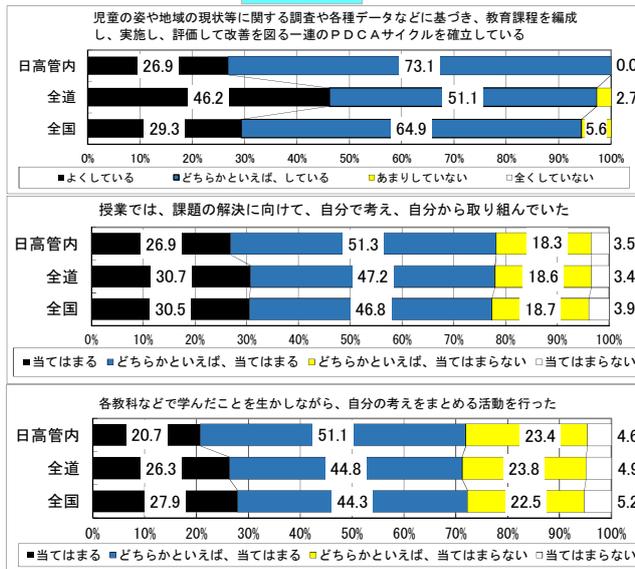
【平均正答率の推移】「管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の経年変化



【質問紙の状況】

小学校

中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していることから、各種データを全教職員で共有しながら、教育課程の実施状況を的確に把握し、把握した課題について指導計画を改善し、検証改善の質を高める必要がある。

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童の割合や、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した児童の割合が、全国及び全道を下回っていることから、各教科等を通じて学校全体で言語活動に取り組んだり、児童が自らの考えをうまく伝えられるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行ったりすることができるようにする必要がある。

中学校

前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合が全国及び全道を下回っていることから、学習内容の系統性や発達段階を踏まえた指導方法について、授業参観や小中合同研修会等で、共通理解を図る必要がある。

調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫しているが、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を下回っていることから、日常の授業で、生徒が、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を行うことができるよう、問題発見・解決の過程を重視し、授業改善を図る必要がある。

【日高管内の学力向上策】については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

日高管内における学力向上の取組

1. 管内課題と重点的な改善策

(1)カリキュラム・マネジメントによる組織的、計画的な指導

■育成を目指す資質・能力が不明確であったり、教育課程の評価結果や改善方策が全教職員で共有されていなかったりすることから、各学校の検証改善サイクルの充実に努める必要がある。

□教育課程の実施状況や指導計画の改善方法などの各種データを全教職員で共有し、検証改善の質を高める取組の推進

□各教科等で育成を目指す資質・能力を明確に位置付けた単元の指導計画を作成する取組の推進

(2)指導と評価の一体化による授業改善

■児童生徒が学び合っていたかという学習活動に注視しすぎ、何ができるようになるとよいかの捉えが不十分であることから、各教科等で育成を目指す資質・能力の観点から、子どもの姿で評価する場面を意図的・計画的に位置付ける必要がある。

□学習指導要領で示されている各教科等の目標に基づき評価規準を明確化して子どもの姿を見取るなど、学習評価の充実改善に向けた取組の推進

□ほっかいどうチャレンジテストの小学校第5学年及び中学校第2学年の結果分析による、育成する資質・能力を明確化した授業改善の推進状況をマネジメント

(3)ICTの効果的な活用による指導の充実

■「協動的な学び」を重視したICTの活用に終始していることから、学びを保障する取組をはじめ、「個別最適な学び」の視点を取り入れた授業改善を行う必要がある。

□管内全ての学校及び学年の授業において、1人1台端末を効果的に活用する取組の推進

□ICTの活用による「個別最適な学び」と「協動的な学び」の一体的な充実を図る教員研修の推進

2. 具体的な取組

月	(1)カリキュラム・マネジメントによる組織的、計画的な指導	(2)指導と評価の一体化による授業改善	(3)ICTの効果的な活用による指導の充実
10	日高管内校長会・教頭会との連携	学校教育指導訪問計画訪問2次訪問	ICTを活用した授業実践に係る資料をクラウドストレージ上で共有（通年） 日高教育研究所・教職員研修センターとの連携（通年）
【ひだかプラン】全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業改善			
11	日高管内授業力向上研修会	日高管内授業力向上地域別研修（11月～1月）	
12			
1	日高管内教育課程編成協議会		
2	教育委員会訪問		
3			

3. 取組の評価

(1)カリキュラム・マネジメントによる組織的、計画的な指導

①各種学力調査の組織的な分析に基づく目標設定、目標達成に向けた具体的方策の明確化、取組の検証を行っている学校の割合

（管内教育推進の重点評価）

・現状 小…100% 中…80.0%

・目標 小…100% 中…100%

※1月の管内教育推進の重点評価で実施

②各教科において育成を目指す資質・能力を明確に位置付けた単元の指導計画を作成している学校の割合

（管内教育推進の重点評価）

・現状 小…92.6% 中…86.7%

・目標 小…100% 中…100%

※1月の管内教育推進の重点評価で実施

(2)指導と評価の一体化による授業改善

①学習指導要領を踏まえ、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した学習評価の充実改善に向けた取組をしている学校の割合

（管内教育推進の重点評価）

・現状 小…97.3% 中…80%

・目標 小…100% 中…100%

※1月の管内教育推進の重点評価で実施

②チャレンジテストにおける平均正答率が、全道平均を超えている学校の割合

・現状（前年度問題）

小5…51.9% 中2…49.3%

・目標（2学期末問題）

小5…60.0% 中2…60.0%

※1月の結果登録完了後に実施

(3)ICTの効果的な活用による指導の充実

①端末の利用状況に関して、全学年でほぼ毎日活用している学校の割合

（R3端末利活用状況等の実態調査）

・現状 小…53.8% 中…73.3%

・目標 小…100% 中…100%

※1月の管内教育推進の重点評価で実施

②GIGAスクール構想を見据えたICT機器の効果的な活用及び教員の活用スキルの向上に係る取組を行った学校の割合

（管内教育推進の重点）

・現状 小…88.9% 中…86.7%

・目標 小…90.0% 中…90.0%

※1月の管内教育推進の重点評価で実施

4. 改善点

(1)カリキュラム・マネジメントによる組織的、計画的な指導

□各種学力調査結果を踏まえた重点項目の設定及び指導計画の作成、児童生徒の実態に応じた授業改善及び補充的な学習の内容の充実に係る指導助言及び各種研修会の実施

(2)指導と評価の一体化による授業改善

□学習指導要領を踏まえた身に付けさせたい力の明確化と授業改善の進捗状況について指導助言

□各種研修会における、入学者選抜報告書を踏まえた学習指導要領に基づく学習状況の定着の把握方法についての研修を実施

(3)ICTの効果的な活用による指導の充実

□日高管内教育課程協議会における、各教科等の学習過程を踏まえた効果的なICTの活用に係る研修の実施

□クラウドストレージを活用し、各校での1人1台端末の活用に係る実践例を共有